

はあとふる ふくしま



2012

4

Vol.192

発行・企画編集

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

TEL (024) 523-1251(代) FAX (024) 523-4477

URL <http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>

メール heartful@fukushimakenshakyo.or.jp



たくさんの「おいしい」を今日も！



今月の 表紙

いわき市にある就労継続支援事業所「あとりえ北山」のお菓子づくりの様子。利用者の皆さんは自分の担当をテキパキとこなしながら、見事なチームワークを披露してくれました。できあがったお菓子は地元のお店や病院、老人ホームや仮設住宅などで販売。優しいおいさが人気を呼んでいます。(詳しくは6～7Pでご紹介)

特集 2

震災から1年 今、必要とされる 避難住民生活支援とは

～福島県の実情を踏まえて～

「ふくしま明日への一歩」 6

ドーナツでつなぐ、まあるい絆
～あとりえ北山の移動販売～

情報掲示板 8

- ・人材研修課主催研修(上半期)のご案内
- ・県民介護講座のご案内



「はあとふる・ふくしま」の作成経費の一部として、共同募金配分金および特別賛助会員の寄付金を使用させていただいております。

震災から1年 今、必要とされる 避難住民生活支援とは

～福島県の実情を踏まえて～

長期化する避難生活の継続的な支援には、いま何が求められているのでしょうか。避難住民の孤立・孤独化を防ぐために昨年から配置された「生活支援相談員」。その活動から見てきた避難住民の現状と支援課題について取り上げます。

**16万人にのぼる避難者
9万7千人は県内で生活**

東日本大震災から1年が過ぎても、福島県では16万人が県内外での避難生活を余儀なくされています。県内の仮設住宅に入居しているのは約3万2千人。さらに県内の公営住宅や民間の借り上げ住宅に住む人は6万5千人（平成24年3月5日時点に上り、過去に例のない住民避難です）。

その生活を支えていくために県社協では孤立・孤独化防止を大きなねらいとして、県内に171人（平成24年2月1日時点）の生活支援相談員を配置し、最も身近な見守り・相談者として、被災者・避難者の心に寄り添いながら日々訪問活動などの支援を行っています。

す。昨年7月から今年1月末までの間に約20万回近い訪問活動のほか、サロン活動など「コミュニティづくりの支援」を行ってきました。

現状調査の結果をもとに 意見交換・討論会を実施

県社協では、生活支援相談員の活動を通して、避難住民の現在の生活不安や課題などを明らかにし、今後一年程度を目安に必要とされるべき支援策などを関係機関などに提案することを目的に、2月に「生活支援相談員活動から見る避難住民生活の現状調査」を実施しました。

この調査結果を基に、3月14日には、9市町村のチーフ生活支援相談員らによる「生活支援相談員による避難住民

生活支援に関する意見交換・討論会を実施しました。会場には百名近くの福祉や行政関係者等が集まり、情報交換すると共に、それぞれの立場でこれからの支援のあり方について考えました。

※調査対象：県内配置のすべての生活支援相談員171名
集計方法：回答はすべて記述式。回収内容を分析し、カテゴリー別に分類。

生活支援相談員による避難住民生活 支援に関する意見交換・討論会

開催日 平成24年3月14日（水）
進行役 桑原英文氏



一般社団法人 コミュニティ・4・チルドレン代表理事
JPCOM (Japan Philippines Community&communication) 代表
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 幹事（中央共同募金会）

過去の震災の教訓をもとに「生活支援相談員」の必要性をとえ、設置に尽力。東日本大震災でも宮城県・福島県で災害ボランティアセンターの運営支援や復興支援活動を行っている。

意見交換・討論者

広野町社協・チーフ生活支援相談員

鈴木裕美子さん

大熊町社協・チーフ生活支援相談員

伊藤健一さん

双葉町社協・主任生活支援相談員

高野陽子さん

相馬市社協・次長兼

今野大さん

生活復興ボランティアセンター長

黒木洋子さん

主任生活支援相談員

菅野純子さん

飯館村社協・チーフ生活支援相談員

齋藤貴之さん

郡山市社協・地域福祉課主査兼

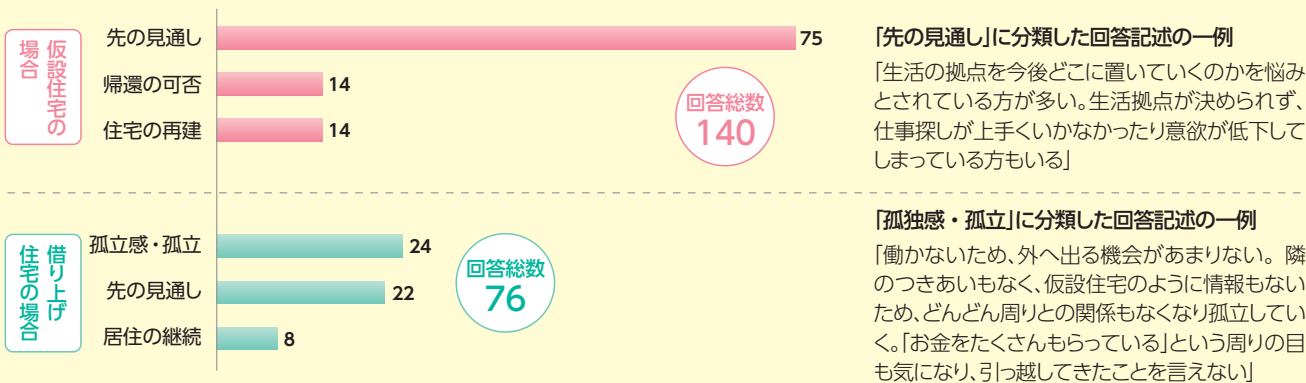
板橋清介さん

福祉活動専門員

本田多賀子さん



グラフ1 震災から1年が経過する現在、避難住民が日々の生活において感じている不安（上位3回答）（上位3回答）



フロア参加者

市町村社会福祉協議会役職員、県及び市町村行政職員、関係機関・団体所属者など

論点

①「コミュニティ崩壊の影響と新しいコミュニティでの生活課題」、②「世帯分離の進行により懸念される福祉課題」、③「仮設住宅と借り上げ住宅避難者への支援格差」

① 新しいコミュニティでの生活課題

《調査結果報告》「避難住民が不安に感じている内容」で際だって多い内容は、「先の見通し」がわからないということでした。グラフ1。その根本にあるのが、原発事故により避難区域になっている故郷に帰れるのかどうかという「帰還の可否」があります。

《進行役・桑原英文さん》双葉町は町そのものの機能が埼玉県にあり、連絡調整がしにくい部分があると思います。が、いかがでしょうか。

《双葉町社協・高野さん》

高齢者のなかには「来年は帰れるんだ



べ？」という人もいますが、一時帰宅する度に家が荒れていくのを目の当たりにした人は、「ふるさとがなくなっていく、帰る場所がなくなっていく」のを実感しています。埼玉県加須市だけではなく町民が県内外に散らばっている状況です。町として「仮の町」構想はあるようですが、これからさらにバラバラになっていく可能性があります。「帰りたいけど帰れない」気持ちの揺れを相談業務で感じます。せめて伝統行事を子どもたちに伝承しようと、取り組みんでいる方もいます。私たちは離れてはいても地域の力をつけるきっかけづくりや、自立して暮らしていくための支援をしていかなければならないと感じています。

《広野町社協・鈴木さん》



広野町は去年の9月に緊急時避難準備区域が解除されましたが、町内のインフラ整備や除染が

終わっていないので、町に戻っている人は250人程度です。仮設住宅や借り

上げ住宅を訪問していると放射能に関する考え方、とらえ方が非常にバラバラで不安を感じている人が多いです。帰還に向けた支援としては、町民の方たちの不安を解消していくことが、大きな課題になってくると思います。

《進行役・桑原英文さん》「ふるさと」という言葉がありました。避難した子どもたちが「ふるさと」を持たずに成長していくことが懸念されます。一方、避難先となる市は、どのような支援をお考えですか。

《郡山市社協・齋藤さん》



郡山市には富岡・双葉・川内の3力所から避難されてきています。市社協では「避難者」と色

分けせずに、お互い様で生活できる仕組みをつくりたいと思っています。3町村の方が市内のいきいきサロンに参加できないかと地元の方に話して、参加できるよう調整しています。お買い得な店、美容室、クリーニング店などの生活情報を交換するような特別ではない支援が求められているように思います。

《会津若松市社協・板橋さん》



会津若松市のほとんどの人は、避難者を快く受け入れています。私が借り上げ住宅を訪ねていく

と、「何をしに来たの？」と大家さんにいぶかしがられたこともありまして。避難者を守らなければならぬ、という思いでしたようです。

また、震災などで亡くなられた方の仏事が行えず困っていたところ、あるお寺で供養を引き受けてくれたこともあったそうです。長い関わりになりましたので、個別の課題を調整し解決していくのも私たちの役割だと思います。

② 世帯分離の進行により 懸念される福祉課題

《進行役・桑原さん》コミュニティの基礎は、家族・世帯です。核家族化が進むなかでも沿岸部は比較的三世代で住むケースが多くありました。今回の被災で家庭が切り離されている実態があればお話しください。

《大熊町社協・伊藤さん》

会津若松市に避難している大熊町民



の支援相談を担当しています。具体的に見通しが見えないなか就労や就学の問題が出てきていま

す。2〜3年で移動しなければならぬのであれば仕事に就かなくてもいいという方もいます。また、子どもたちの学校は、少しでも故郷に近い、いわき市に行きたい。しかし町の機能が若松にある状況だと個人では決断できないということです。以前はあった家庭環境がお子さんも含めてバラバラになってしまっているのが現状です。

《南相馬市社協・黒木さん》



避難される前は、孫やひ孫と一緒に暮らして自分の役割があったのに、それがなくなつて閉じこも

つてしまつて高齢の方がいます。農作業や草むしりができないので、さらに悪循環です。サロンに出てこられる方はいいいのですが、なかなか出てこない方をどうするかが課題です。

《進行役・桑原さん》世帯の分離がい

ち要因となつて高齢者の閉じこもりも見られてきているようです。飯館村はどうでしょうか？

《飯館村社協・菅野さん》



借り上げ住宅を訪問すると、

日中独居になる高齢者がほとんどです。若い世代は職場に近い

ことを優先してアパートを借りることが多く、おじいちゃん、おばあちゃん話し相手がいないし、知らない土地を歩く不安から第三者とのコミュニケーションがとれない状態にあります。人恋しくて、沈んでしまつた心をお茶会などを開いて溶いていければと思っています。今後は、お茶会に参加されていない方々を中心とした個別訪問に力を入れていきたいと思っています。

《双葉町社協・高野さん》

コミュニティを大切にするお年寄りが仮設住宅に、息子夫婦が借り上げ住宅に分かれて住むケースもあります。仮設住宅がなくなった時に高齢者をちゃんと引き取るのか、今後課題になると思います。

③ 仮設住宅と借り上げ住宅 への支援格差

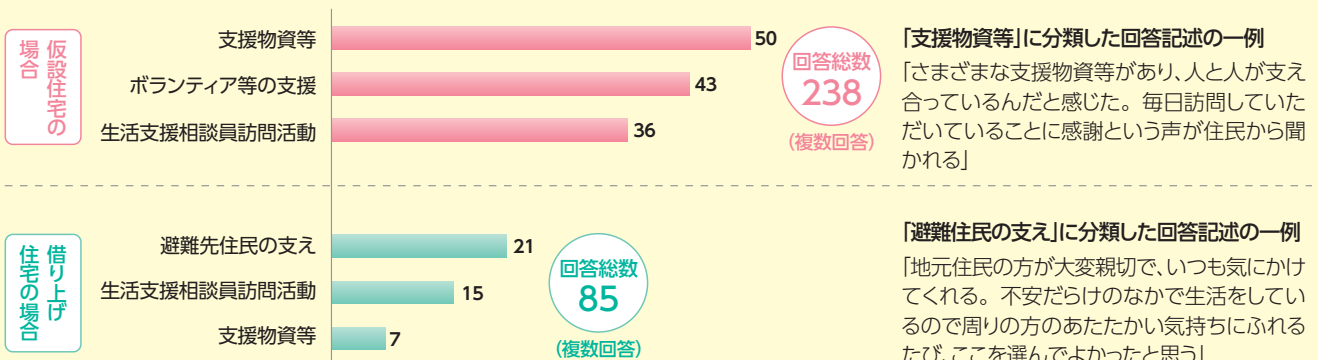
《調査結果報告》「避難生活のなかで、これまでの間に感じた生活上の満足感や感謝していること」**グラフ2**「については、仮設住宅では「支援物資等」が、借り上げ住宅では「避難先住民の支え」が、それぞれ多数を占めました。一方で、「まだに不足している支援」**グラフ3**については、仮設住宅の場合「住環境の改善等」が、借り上げ住宅は「生活情報の提供」が多くありました。

《相馬市社協・今野さん》

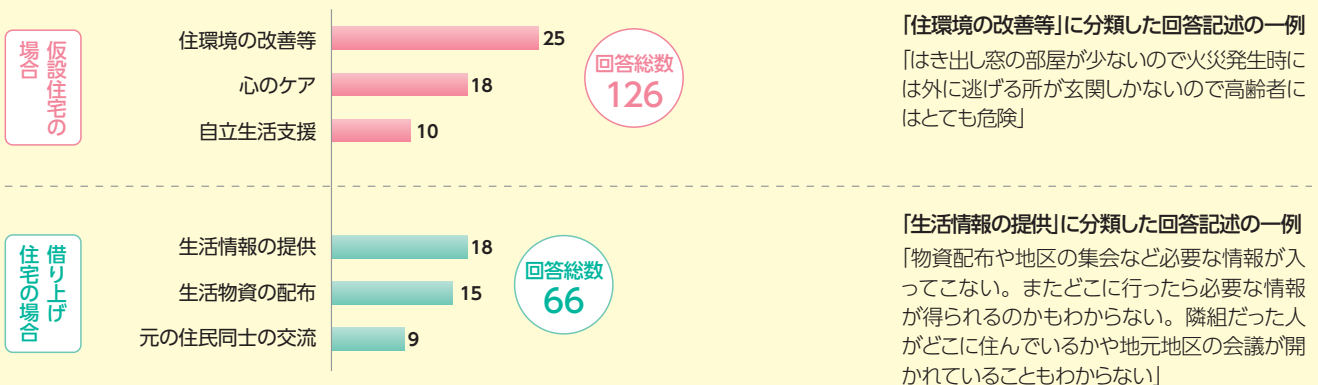


相馬市には、原発事故で他市町村からも多数避難しています。高齢者には、「行きが見えない。私たちは、この仮設住宅で死ぬしかない」と言う方もいます。そんな時には、先のごことがわからないなら、何か希望とか未来もあるんじゃないの？」と話します。そうすると「じゃあ、もう少しがんばるか」と言ってくれることもあります。今は物ではなく心のケアが必要です。

グラフ2 避難生活のなかで、これまでの間に感じた生活上の満足感や感謝していること（上位3回答）



グラフ3 いまだに不足している支援（上位3回答）



ています。
報」を発信して
ではなく「情
報」を発信して
いきたくと思っ
ています。



《南相馬市社協・黒木さん》
借り上げ住宅でも自分たちでサロン
をやりたいから社協に「手伝って」と声
をかけてきた
人もいます。
そういう方た
ちとうまく関
係を築いて、も
つと「物」
ではなく「情
報」を発信して
いきたくと思っ
ています。

仮設住宅では配布物が多すぎて、目
を通さないままにいる人が多いそうで
すが、借り上げは物資だけでなく情報
さえもこない。この差を縮めるのは難
しいです。仮設住宅の場合は「支援が当
たり前」から、自分たちで自らの生活を
前に進めていく支援を考えていかなけ
ればなりません。



白河の借り上
げ住宅を昨年訪
問した時は、仮設
住宅にばかり支
援物資が届くこ
とへの不満が聞
かれました。

《白河市社協・本田さん》

《進行役・桑原さん》物がいろんなも
のを崩していくこともあるし、物が人
をつなぐという面もあります。しかし、
住民の格差を生む原因にははいけま
せん。また、避難者自ら暮らしを再生
するために、必要なときに「助けてほ
しい」といえる社会。そして助けられ
るための支援が求められていると思
います。

この震災で、家族を奪われた人がいま
す。生活してきた家や土地から離れざ
るを得なかった人がいます。様々な悲し
みや悔しさ、悩みを多くの住民は抱えて
います。非日常生活が日常生活になりつ
つある避難生活では、今までとは違う多
くの課題や問題が顕在化してきていま
す。さまざまな亀裂、分断も起ってい
ます。時の経過とともに新たな課題も
予想されることです。
生活支援相談員活動から見る避難住
民生活の現状調査の一環として開催し
たこの意見交換・討論会では、被災し
避難されている住民生活への理解を深
め、今日からまた一年先の住民生活を
支えていくための方策を多くの関係者
の方とともに考える機会となりました。



いわき市

取材協力

社会福祉法人 希望の杜福祉会

あとリエ北山

〒970-8026

いわき市平字作町1-4-3

TEL (0246) 35-5789



あとリエ北山のスタッフと利用者の皆さん。いつもの笑顔でパチリ（写真右）。あとリエ北山はいわき市の住宅街の一角にあり、中はおしゃれなカフェ・ギャラリーコーナーとなっており、イラストレーターなどの個展が年に5～6回開催されています。

ドーナツでつなぐ、まあるい絆 ～あとリエ北山の移動販売～



あとリエ北山管理者の木村活昭さん。「震災を経験したことで、地域とつながることの大切さを一層自覚しました」。

「私たちの法人には就労継続支援B型（※）の事業所が3つあり、その一つがあとリエ北山です。同じくB型の工房けやきではお豆腐を作って販売しているのですが、そこで取れるおからや豆乳などを使って、ここではドーナツやお菓子などを作っています」と教えてくれたのは、管理者の木村活昭さん。

あとリエ北山は平成16年4月に精神障がい者の小規模作業所として開所し、現在の登録利用者は34名。利用者は自分の体調や症状などに合わせて、週に1回～3回のペースで活動しています。

「震災直後はやむなく2週間ほど活動

震災後も誰一人 辞めることなく事業を継続

いわき市にある「あとリエ北山」では、豆腐やおからを使ったドーナツをはじめ、お菓子やお惣菜など様々なものを作っています。事業所の中はおしゃれなカフェ・ギャラリーコーナーになっており、地域との絆を育むスペースとしても利用されています。震災から1年、現在の活動についてうかがいました。

を休止しましたが、3月下旬には再稼働することができました。利用者さんにとって生活のリズムや睡眠、服薬管理はとても大切なことなので、避難中は体調の変化もあったのではないかと思います。それでも、震災が原因であとリエ北山を辞めるという方は一人もいませんでした。精神障がい者の就労支援について木村さんは、「日々、職員は利用者一人ひとりを見て、コミュニケーションを図っています。病気への配慮、指示や作業環境の明確性など、対人面や環境面での配慮が必要です。その上で、これまで利用者一人ひとりの歩んできたことや今後の希望を尊重し、利用者も職員も同じ労働者として、対等の立場で接することが大事だと感じています。働くことには責任が伴います。働き給料を得ることで、利用者が達成感や喜びを感じ、自信を持ってもらえたらと思っています。それが病状の安定化にもつながっています」。

※一般企業等での就労が困難な人に働く場を提供するとともに、知識や能力の向上のために必要な訓練を行う。

行ってきまーす♪



こちら移動販売車。注目度バツグンで一度見たら忘れない!?



日本財団から寄附を受けた移動販売車。イラストは県内外で活躍している比佐健太郎さん(いわき市在住)によるもの。



クッキーの生地づくりの様子。スピードと手際の良さはまさに職人クラス。

仮設住宅でも大人気 豆腐とドーナツの移動販売

あとりえ北山では、自分たちの活動を地域にもっと知ってもらおうと、商品の移動販売を行っています。スタッフの一人松本善孝^{まつもと ぜんこう}さんは、利用者さんとペアになって市内各地を回っていますが、最近は仮設住宅にも何うようになりしました。「お昼前に商品をどっさり車に詰め込んで、戻るのは夕方5時過ぎぐらい。いわき市には檜葉町の仮設住宅があるのですが、私は以前、同じ法人の檜葉町にあった「ふたばの里」に勤めていましたので、見知った顔ぶれに会えるのは嬉しい限りです。仮設住宅の皆さんからは、木村さんは「親方」、私は「ゼンちゃん」って呼ばれていて、会話も思わずはずみです。逆にエネルギーをもらっている感じがですね」と松本さん。地域とのコミュニケーションについてうかがうと、「授産施設というものを自分もこの職場に働いていなかったら、きっと知らなかったと思います。でも移動販売で外に出て



スタッフの松本善孝さん。「移動販売で感じることは人との出会い。お客様の笑顔にこちらも癒されています」

ご近所の方や友だちと会って、実はこういう仕事なんだよと言うと、よく分かってもらえる。事業所の中だけではなく、外でたくさんの方々とふれあうことで事業所の知名度も上がると思います」。昨年11月には、日本財団から助成された移動販売車が新戦力として仲間入り。その場で揚げるアツアツのドーナツは、お客様にも大好評です。

あとりえ北山では、地域のニーズに応えていこうと、ドーナツだけではなく新商品の開発にも力を注いでいます。お豆腐のごま団子、絹豆腐を練り込んだ白玉団子、おから茶などの定番商品に加えて、おからサラダサンド、おからナゲットといったお弁当の分野にも手を広げ、顧客の獲得をめざしています。「こんな商品ってどうかな?」ってアイデアをスタッフのみんなに話すと、いつの間にか試作品ができたりして「スピードとチームワークの良さは私たちの自慢ですよ」と松本さんは笑顔で浮かべます。

福祉プラス経営の考えで、 新しい絆をつないでいく

震災以降、試行錯誤を繰り返しながらも一歩ずつ前に進み、あとりえ北山と地域との絆はより一層強くなりました。今後の展望について木村さんは、「ここに来ている利用者さんは一般就労がなかなかできなくて、それでも働きた

いという意欲のある方ばかりです。とはいえ、これまで売上げが思うように伸びずお給料を下げなければならぬということもあり、私たちも断腸の思いでした。しかし、移動販売や商品ラインナップを増やすことで売上げも少しずつ伸びてきました。今後は自分たちが一つずつ積み上げてきた経験や努力に見合うお給料を出せるように工夫していきたいと考えています。経済活動と結びつくことで、地域の障がい者への理解にもつながるし、利用者さんの所得補償にもつながっていくと思います。最終的には精神障がいの方々が暮らしやすい地域になればいいと思います」。

福祉の職場でありながらも、調理の仕方や販売方法、宣伝など、経営の話題が尽きない、あとりえ北山の皆さん。4月以降の新商品の計画をこっそり聞いてみると、豆腐の燻製を試作中なのとか。そう遠くない日に、新しいおいしさがお目見えする!? かもしれません。



地元スーパー「マルト」の駐車場を借りて販売。揚げ立てのドーナツはいつも大人気!

阪神淡路大震災のあった平成7年は「ボランティア元年」と言われ、その後ボランティアが広く社会に認知されてきました。昨年の東日本大震災においてもボランティアの活躍は皆さんご承知のとおりです。今回のワードは、新しいボランティアの手法として今注目されている「プロボノ」についてです。

「職能」を活かすボランティア

「プロボノ」はラテン語で「公共のために」「公共善のために」という意味です。弁護士等の法律家が無償で相談や弁護活動を行ったことがはじまりです。

自分の「時間」と「労力」を提供する従来のボランティアとプロボノの違いは、自分の「時間」「労力」に加え、さらに「職能」を提供することです。自分の職業、資格、専門技術などの仕事を通じて培ってきたスキルをボランティア活動に活かします。

例えば、普段経理のお仕事をしている人がボランティアグループの会計を手伝ったり、ITの技術を持つ人がNPO法人のホームページの新設や更新を行ったりするなど、十分な「職能」を持っているからこそできるボランティア活動です。



する人にも受け入れる団体にもメリット

NPO法人やボランティアグループ等は、地域の福祉を良くしよう、みんなが自分らしく暮らせるようにしようという気持ちで活動していますが、中には法律や経理、IT、広報デザイン等の専門知識が不十分なことを課題に思っているところもあるのではないのでしょうか。しかし、プロボノというその道のプロがボランティアとして関わることで、受け入れた団体は良い成果を得ることができるばかりでなく、間近でそのスキルに触れ学ぶことができる機会にもなります。また、プロボノをする人にとっては、仕事で培ってきた技術を大いに活かすことで社会貢献ができるという達成感にもつながります。

豊かな「職能」で、地域も豊かに

双方が互いを知るきっかけや環境が整備されたり、会社ぐるみの社会貢献として取り組んだりすることで、プロボノが社会に定着していくのではないのでしょうか。仕事を持つ人たちの豊かな職能が、ボランティア活動をとおして地域社会も豊かになっていくことが期待されています。

ふくしま インフォメーション

平成24年度 赤い羽根共同募金運動 スローガン募集

「赤い羽根募金」の愛称で親しまれている共同募金運動をより身近に感じてもらい、ともに支え合う福祉のまちづくりへの関心が高まることを目的としてスローガンを募集します。

テーマ 「赤い羽根共同募金に関すること」～赤い羽根共同募金運動を通じて、地域に広がる「優しさや支え合いの輪」や「福祉のまちづくり」をイメージするようなスローガンを自由に考えてください。

募集期間 5月14日(月)～6月29日(金)

応募資格 どなたでも応募できます。

お問い合わせ

福島県共同募金会

TEL (024) 522-0822

詳しくは、

赤い羽根ふくしま

検索

第50回 福島県障がい者 総合体育大会開催

障がい者がスポーツを通じて、心身の健康維持・増進を図るとともに、県民の障がい者に対する理解を深めることを目的に開催されます。

期 日 5月13日(日)・27日(日)

種 目 【13日】 陸上・フライングディスク・卓球・サウンドテーブルテニス・アーチェリー・サッカー(会場はあづま陸上競技場)

【27日】 バスケットボール・車椅子バスケットボール・バレーボール・水泳・ソフトボール・グランドソフトボール(会場は福島北高校体育館他)

お問い合わせ

財団法人福島県障がい者スポーツ協会
(福島県障がい福祉課内)

TEL (024) 521-7070

情報掲示板

人材研修課主催研修(上半期)のご案内

人材研修課では社会福祉施設職員や地域福祉活動者を対象に、資質向上のため各種研修を実施しています。平成24年度上半期の研修については下記のとおりを予定しています。

※都合により日程が変更になる場合があります。※開催通知は、対象となる施設等に随時送付します。

5/8	保育所新任保育士研修	7/23	リスクマネジメント研修Ⅰ
5/23～25	社会福祉施設中堅職員研修(第1班)	7/25～27	社会福祉施設新任職員研修(第4班)
5/30～31	訪問介護員初任者研修	7/30	リスクマネジメント研修Ⅱ
6/5	老人福祉施設職員研修Ⅰ	8/1～3	社会福祉施設新任職員研修(第5班)
6/6～8	社会福祉施設中堅職員研修(第2班)	8/6	リスクマネジメント研修Ⅲ
6/11	訪問介護員テーマ別技術向上研修Ⅰ	8/8～10	社会福祉施設新任職員研修(第6班)
6/13～15	社会福祉施設中堅職員研修(第3班)	8/20	保育所保育士専門研修Ⅰ
6/19～21	社会福祉施設中堅職員研修(第4班)	8/23	接遇マナー研修Ⅰ
6/22	児童厚生員・放課後児童指導員研修	8/30	接遇マナー研修Ⅱ
6/25	老人福祉施設職員研修Ⅱ	9/3	接遇マナー研修Ⅲ
6/27～29	社会福祉施設長等運営管理職員研修	9/5～7	社会福祉施設指導的職員研修(第1班)
7/4～6	社会福祉施設新任職員研修(第1班)	9/12～14	社会福祉施設指導的職員研修(第2班)
7/9	訪問介護員テーマ別技術向上研修Ⅱ	9/20	児童福祉施設職員研修
7/11～13	社会福祉施設新任職員研修(第2班)	8/25	保育所保育士専門研修Ⅱ
7/18～20	社会福祉施設新任職員研修(第3班)		

お問い合わせ先

県社協 人材研修課 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111

TEL (024)523-1259(直) メール kensyu@fukushimakenshakyo.or.jp

受講料無料

県民介護講座のご案内

県民の皆さんを対象に、介護についての基本的な技術と基礎的な知識を学んでいただく初歩的な講座です。「介護」に関心のある方であれば、どなたでもお気軽に参加いただけます。

※都合により日程やプログラムが変更になる場合があります。

●初級介護講座

介護に関する基本的な知識や安全な介助方法について、実技を交えながら学びます。

6/ 2(土) 午前10時～午後3時30分

●介護実技基本講座

介護の心構えや、実際の介助方法について「実技」を中心に分野別に学びます。ご希望の分野のみの受講も可能です。

※時間は、午後1時～午後4時です。

6/ 9(土) 「よりラクで、安全な移動」

6/23(土) 「食事の介助とその工夫」

6/30(土) 「高齢者の栄養と食事(簡単な調理実習含む)」

7/28(土) 「排泄の介助とその方法」

8/ 4(土) 「ベッド周りの介助と清潔を保つ方法」

9/ 1(土) 「緊急時や災害時における対応」

●介護ワンポイント講座

介護や高齢者福祉に関する分野について、基本的事項を「講義」を中心に学びます。ご希望の分野のみの受講も可能です。

※時間は、午後1時～午後3時です。

5/26(土) 「高齢者を体験してみよう」(一部体験を含む)

6/16(土) 「認知症を正しく知ろう」

7/ 7(土) 「医療と福祉」

7/14(土) 「福祉用具と住宅改修」

8/11(土) 「介護する家族の心のケア」

9/ 8(土) 「元気に年を重ねよう」

※会場はすべて二本松市の「福島県男女共生センター」です。

●申し込み方法

お住まいの市町村高齢福祉担当窓口、社会福祉協議会等に配布している講座案内によりお申し込みください(FAX申し込み可)。

なお、下記あて直接お問い合わせいただいても結構です。

お問い合わせ先

県社協 人材研修課(二本松事務所)

〒964-0904 二本松市郭内1丁目196-1

(福島県男女共生センター5階)

TEL (0243)23-8306(直) FAX (0243)23-8314

※日曜日・祝日及び休館日(月曜日)は休みとなります。ご連絡は火～土曜日をお願いします。月曜日が祝日の場合は翌日が休館日となります。

赤い羽根 ささえあい



社会福祉法人福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 (福島県総合社会福祉センター内)

TEL (024) 522-0822 FAX (024) 528-1234

●メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp

●ホームページ <http://www8.ocn.ne.jp/~akaihane/>

赤い羽根共同募金ふくしま

検索

平成 23 年度も赤い羽根共同募金にご協力をいただき誠にありがとうございました。今月号では、皆様からお寄せいただきました募金の実績額とその用途についてご報告いたします。

なお、詳しい配分先については福島県共同募金会ホームページにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。

平成 23 年度共同募金運動実績額

4 億 4,135 万 9,537 円

赤い羽根共同募金実績 2 億 6,843 万 8,971 円

赤い羽根共同募金は平成 24 年度、以下の内容に役立てられます。

①福祉施設の整備・支援	47,370,000 円
②県域で活動する福祉団体の支援	2,690,000 円
③地域福祉・在宅福祉活動の推進	990,000 円
④広域福祉活動の推進	10,770,000 円
⑤小規模作業所等の支援	6,280,000 円
⑥住民による福祉活動の支援	5,000,000 円
⑦非常災害・緊急事態への対応	26,933,685 円
⑧災害等準備金（積立金）	13,000,000 円
⑨市町村社会福祉協議会活動の支援	112,871,203 円
⑩共同募金運動の実践・推進	65,686,000 円

合 計 291,590,888 円

※平成 23 年度共同募金実績額との差額 23,151,917 円は、配分辞退などによる返還金等であり、今回の実績に含め配分に充てられました。

歳末たすけあい募金実績 (A+B) 1 億 7,292 万 0,566 円

A 地域歳末たすけあい募金 1 億 3,173 万 2,523 円

地域歳末たすけあい募金は平成 23・24 年度、以下の内容に役立てられます。

①生活支援事業	94,293,076 円
②社会参加事業	17,368,747 円
③総合福祉の事業	17,708,552 円
④災害・緊急関係事業	2,362,148 円

合 計 131,732,523 円

B NHK 歳末たすけあい募金 4,118 万 8,043 円

NHK 歳末たすけあい募金は平成 24 年度、以下の内容に役立てられます。

①小規模作業所等備品整備事業	1,200,000 円
②小規模作業所等車両整備事業	3,400,000 円
③地域保育所備品整備事業	4,760,000 円
④ハンセン病療養所県人会支援事業	250,000 円
⑤災害見舞金	2,840,000 円
⑥経費	1,738,043 円
⑦繰越金	27,000,000 円

合 計 41,188,043 円

お知らせ

福島県共同募金会では
右記の申請を募集します。
詳細は本会ホームページを
ご覧ください。

平成 24 年度共同募金による平成 25 年度配分申請の受付について

- 配分対象…社会福祉施設、県域で活動する福祉団体、小規模作業所（地域活動支援センター）など
 - 受付期間…平成 24 年 4 月 2 日から 5 月 31 日まで
 - 配分決定…平成 25 年 3 月下旬
- ※配分事業の実施は、平成 25 年度となりますのでご注意ください。

福島県赤い羽根共同募金助成事業【一般公募】の応募受付について

- 助成対象…地域で福祉活動を行っている住民団体、ボランティアグループ、特定非営利活動法人（NPO）
 - 受付期間…平成 24 年 4 月 16 日から 5 月 23 日まで
 - 助成決定…平成 24 年 7 月上旬
- ※助成を受けて行う事業の実施は、平成 24 年度内（平成 25 年 3 月 31 日まで）となります。

福祉図書紹介

『あと少しの支援があれば 東日本大震災 障がい者の被災と避難の記録』

本書は、各々にとっての「あと少しの支援」とは何かを考えるきっかけとなるのではないのでしょうか。

障がい者とその家族がどうやって災害から生き延びていくか、また地域住民はどんな支援ができるか、行政はどんな備えをすべきか。東日本大震災で新たに問題となった、避難所における発達障がい者への対応や、障がい者への情報提供の仕方などについて、組織的な対応を提案しています。

本書は、各々にとっての「あと少しの支援」とは何かを考えるきっかけとなるのではないのでしょうか。

あと少しの支援があれば助かった命、あと少しの支援があれば苦しまずにすんだ避難。そして、あと少しの支援を待っている人がいる。

近所の助けのないまま津波に流された車いすの男性。避難所を転々とし、健常者と同じ生活を強いられた視覚障がい者。避難所に入らず、1カ月間車の中で過ごした発達障がい者。

本書は、福島県内の養護学校長など、長年にわたり障がい者の教育と福祉に関わった著者が、東日本大震災で地震と津波、原発の三重の被害から逃れた障がい者とその家族のもとを訪れ、聞き取ったありのままを収録しています。

数十件に及ぶ聞き取りから至った結論は「障がい者が災害から無事に逃れるためには小さな支援が必要だ」。



中村雅彦 著
(ジアース教育新社)

社協通信

福島県の西の玄関口である西会津町。西会津町社協では新しく就任した局長のもと、豪雪や町の高齢化などに対応した地域福祉の充実を図っています。



❶ 除雪ボランティアには中学生などが参加し、家から道路までの通り道をつくりました。❷「須刈ネットワーク全体会議」。区長や民生委員が集まって情報交換をする場づくりも西会津町社協の業務のひとつ。❸ 健康づくりの一環で高齢者に人気の屋外ゲートボール場。

西会津町 社会福祉協議会

職員総数：4名(常勤4名)

〒969-4406
耶麻郡西会津町野沢字如法寺
乙3590-2
(西会津町老人憩の家 内)
TEL・FAX
(0241)45-4259

西会津町



エリア情報

(平成24年3月1日現在)

人口：7,128人

世帯数：2,599世帯

高齢化率(※)：41.0%

※65歳以上の高齢者人口が
全人口に占める割合

新局長は「公募」で就任
「社協に新風を吹き込みたい」



「西会津町社協の会長・伊藤勝町長が目指す“社協だからこそできる事業の充実”を進めます」と星美鶴雄さん。

一段と寒さの厳しかった今年2月、町に豪雪対策本部が設置され、社協は除雪ボランティアを緊急募集しました。40名ほどのボランティアが集まり、高齢化率の高い地区の要援護高齢者世帯を中心に活動しました。「町の高齢化率は40%超で、なかには65歳以上の方が過半数を超える、いわゆる限界集落もあります。それぞれの地区ごとに求められる支援を迅速に提供するよう心掛けています」と話してくれたのは事務局長の星美鶴雄さん。社協の管理体制を整えるため、公募で今年初めに局長に就任しました。「以前まで社協とは畑違いの仕事をしていました。逆にその経験を活かしながら、一般の視点で社協に新しい風を吹き込み、地域福祉をより一層進展させることが

社協本来の
地域福祉事業に注力



「長年社協に勤めていると片寄った考えになりがち。局長のもと、よりよい社協を目指します」と佐々木隆さん。

できれば」と話してくれました。

社協の主な業務には、サロンや認知症について学ぶ認知症サポート・養成講座の開催、屋内ゲートボール場の管理運営などがあります。「どの地区でどんなサロンを行うのが良いか民生委員の意見を聞き、その地区の区長に開催してください」ではなく、「開催してみよう」と提案しています。地域包括支援センターや老人クラブなどと連携しながらサロンを開催しやすい環境を整え、開催したいと積極的に手が挙がるようにしたい」と福祉活動専門員の佐々木隆さんと社協の多くは行政からの委託で介護保険事業を行っていますが、西会津社協では介護保険事業を実施せずに事業展開していることも特徴のひとつです。「職員は少ない

ものの、社協本来の地域福祉事業に注力しながら柔軟に活動できるのは西会津社協の良さです」と教えてくれました。

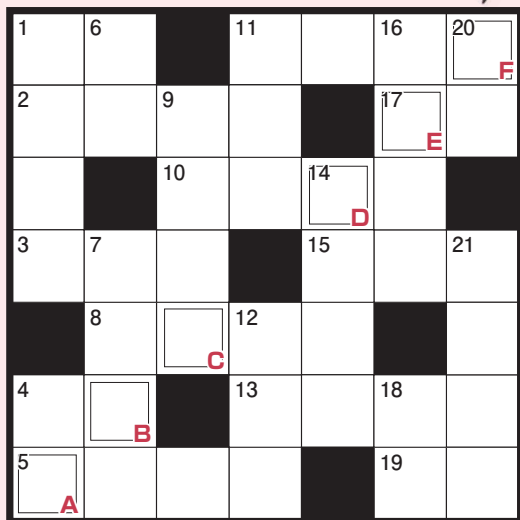
西会津ならではの復興支援

町内には震災の大きな被害はなかったものの、現在も町外から避難されてきた方がいます。2月25日・26日には、放射能への不安から外で遊ぶことのできない子どもにも楽しんでもらう「西会津子ども雪国体験ツアー」を社協が企画、西会津元氣グリーンツーリズム協議会の主催で開催しました。当日は郡山市などから20人の親子が参加し、かんじきウォーキングや、そば打ち体験などを満喫してもらいました。今後も西会津ならではの復興支援に取り組んでいきたいと事務局長の齋藤淳さん。雪深い西会津ならではの温かい支援の輪が広がっています。



「民生委員による要援護者のマップづくりも進めたいと思っています」と齋藤淳さん。

チャレンジ! 全部できたら二重ワクの6文字をABC順に読んでください。そのことが答えです。 クロスワードパズル



応募方法

ハガキにパズルの答えと ①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望 を全てご記入の上、下記までご応募ください。

締切

平成24年5月15日(火)

宛先

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
「はあとふる・ふくしまパズル係」

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。

↓タテのカギ

- ① 満員電車はこの状態
- ④ 神社で奉仕する白衣に緋袴姿の女性
- ⑥ ⇄実
- ⑦ 人類が初めて使用したとされる甘味料
- ⑨ 菅原道真が奉られる大阪天満宮ではこの酒の全国大会も
- ⑪ 春を告げる魚。漢字で書くと「鰯」
- ⑫ 風邪の予防には手洗いとコレを
- ⑭ 一旦お開きで呑み足りない面々はこちらへ
- ⑯ 古代ローマの公用語
- ⑰ 瓢箪から○○
- ⑲ 困り果てたときの四字熟語「青○吐○」
- ⑳ マニュアル車にあってオートマ車にないペダル

→ヨコのカギ

- ① 私にコレがあったら、かかってきなさい
- ② 4月29日は何の日?
- ③ その場を見はからう機転。○○○が効く
- ④ 障子に目、では壁には?
- ⑤ 日本で唯一の立法機関
- ⑧ 世界三大料理はフランスとトルコとコレ
- ⑩ 皮膚・眼・髪などの黒い色素
- ⑪ 野球日本代表の愛称は何ジャパン?
- ⑬ 理科室のこの模型が怖かったっけ…
- ⑮ ここでの沙汰も金次第です
- ⑰ 敷居をまたげば男には7人いるとか
- ⑲ 福島県には31もあり全国2位!



抽選で
当たります

今月の当選者の中から抽選で3名の方に、社会福祉法人こころん(障害福祉サービス事業所・泉崎村)の「 Poundケーキ」をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。



2月号の正解

「猪苗代湖(イナワシロコ)」

多数のご応募ありがとうございました。

ふくしまから
ありがとう

心温まるボランティア活動を受けて

福島愛育園 職員一同



東日本大震災後、私たち児童養護施設「福島愛育園」には、多くの方々から寄付金、物資の寄贈、園内の除染

活動、子どもの喜ぶ催しの開催などの善意が寄せられています。4月以降も遠方への旅行のお誘いが多くあり、職員一同、人の温かさや心強さを感じています。ご支援をくださる皆様は「少しでも子どもたちの力になりたい」と余暇時間を割いてくださっています。それに対し当園長は常に「少しずつ恩返しをしていかなければならない」と話しています。職員全体にもこの意識が高まっており、子どもたちにもいづれ人を助けることのできる大人に成長してほしいと願っています。改めて、ご支援をいただいた皆様には心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

福祉の求人、求職は福祉人材センターへ

5月の「福祉の仕事相談会」の日程

〈相談受付時間 午前10時～午後3時(全会場共通)〉

2日(水)	9日(水)	17日(木)	28日(月)
会津若松市 社会福祉協議会	いわき市 社会福祉センター	南相馬市 原町区福祉会館	郡山市 総合福祉センター

県社協 人材研修課 福祉人材センター／メール jinzai@fukushimakenshakyo.or.jp

TEL (024) 521-5662 FAX (024) 521-5663

★ネット紹介システム(インターネット求人登録)は、

<http://www.fukushimakenshakyo.or.jp> の福祉人材センターホームページからアクセス!

ひとり親のみなさんの就業を応援します

母子家庭等就業・自立支援センター

5月の「就職相談会」のお知らせ

〈相談受付時間 午前10時～午後3時(全会場共通)〉

9日(水)	16日(水)	23日(水)
須賀川市 県中保健福祉事務所	福島市 県総合社会福祉センター	南相馬市 相双保健福祉事務所

●相談無料 事前に予約が必要です。

●随時、お仕事の相談を受け付けております。上記以外にも県内各地で相談会を開催しておりますので、お気軽にご連絡ください。

県社協 人材研修課

母子家庭等就業・自立支援センター

TEL (024) 521-5699

FAX (024) 521-5663

メール boshi@fukushimakenshakyo.or.jp

編集後記

誌面をリニューアルしました。『ふくしま明日への一步』、『ふくしまからありがとう』は新コーナーです。大きなダメージを受け、その影響がまだまだ残るふくしまですが、今、ご支援いただいた方々に『ありがとう』を伝え、この『ありがとう』の気持ちをスタートにまた明日への一歩を進めていきたいと思います。

なかじましょう
総務企画課 中島 将

発行日／平成24年4月13日

制作・印刷／(株)日進堂印刷所